

地域社会のネットワークで 特別支援学校を支援する

～都立調布特別支援学校「リソース・ネット」の取組

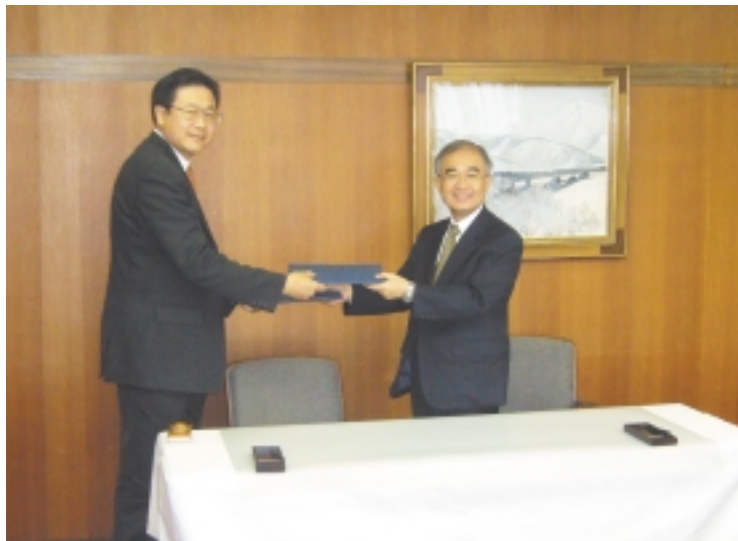
調布市にある都立調布特別支援学校(兵馬孝周校長)では、調布市を中心にした卒業生保護者、地域の住民の方、大学教員・学生、小中学校など様々な人々とゆるやかなネットワークをつくって、外部の方々が学校を支援する仕組み(「リソース・ネット」)をつくる試みが進められています。

国立大学法人電気通信大学と 教育連携の協定を締結

平成21年10月29日(木)、国立大学法人電気通信大学との間で教育連携に関する協定が締結されました。平成20年度から、同校と電気通信大学は、児童が大学の花壇の整備をお手伝いする体験活動等いくつかの取組を通じて協力関係を築いてきました。こうした取組と並行して、連携に向けた協議を進め、正式な協定締結に至りました。

電気通信大学は、コミュニケーションが豊かに行われる社会をめざして「総合コミュニケーション科学」に立脚した人材育成、研究、社会貢献に取り組もうとしている大学です。梶谷誠電気通信大学長は「人と人との関係はコミュニケーションが基本。特別支援学校との連携は、教員にとっても学生にとっても大きな刺激となるでしょう。『支援する』『お手伝いする』というよりも、連携することによって相互に教育効果を高めることができるのではないかと考えています。」と話されています。

今後、エレクトロニクスを活用した教材の開発等、大学の研究成果を教育に活用した支援について具体的に検討していくことになっています。



教育連携協定を手交する電気通信大学梶谷学長(右)と調布特別支援学校兵馬校長(左)

地域社会の支援ネットワーク「リソース・ネット」の設立



電気通信大学構内で花壇整備の体験活動

今後、ネットワークが広がっていけば、他の都立特別支援学校の支援も可能になると思う。」と今後の広がり大きな期待を寄せています。

11月19日(木)、電気通信大学をはじめ、近隣の小中学校、卒業生保護者、地域の方々、児童精神科医師、歯科医師など、リソース・ネットに賛同してくださる方々が調布特別支援学校で一堂に会して、学校見学や意見交換を行いました。

兵馬校長は「特別支援学校の児童・生徒に必要なことは、より多くの人々との交流と豊かな体験活動。より多くの方の支援が得られるよう、どんな切り口からでも支援活動への参加が可能になるように学校のニーズについてリソース・ネットを通じて発信していきたい」と訴えました。

リソース・ネットの委員長を務める電気通信大学の深澤浩洋准教授は、「学校のニーズと支援可能な地域資源(リソース)を把握し、ニーズとリソースの調整を図ることが大切。このためにリソース・ネットを設立した。学校側と支援する側の双方で、『知る』『分かる』『交わる』ということを大切にしながら、今後の支援を具体化していきたい。」と話されました。

兵馬校長は、「調布特別支援学校の学区は複数の市にまたがっており、

都立調布特別支援学校

調布市、府中市、狛江市、三鷹市の4市から知的障害のある小学生、中学生が通う。児童生徒数は約180人。

御紹介した都立調布特別支援学校の取組は東京都教育委員会の「外部の教育資源を活用した特別支援学校を支援する仕組みづくり事業」の一環として実施されています。